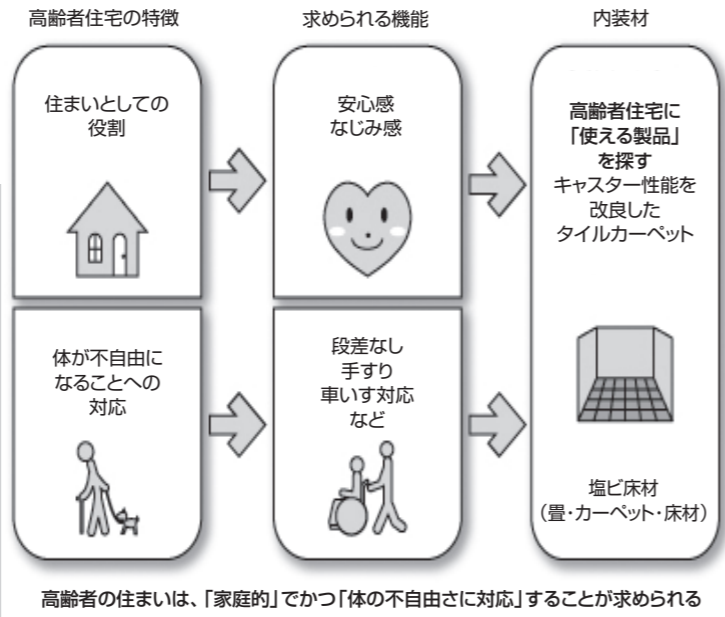


すなやま・けんいち

株式会社ゆう建築設計代表取締役。建築設計と企画を一体的に行う「建築企画」のバイオニア。関西を中心に80を超える医療・介護施設の設計を手がけ、近年では医療法人等を対象とした高齢者住宅事業のセミナーを各地で展開している。1972年、SANT-LUC DE TOURNAI 建築学校(ベルギー)留学。75年、京都大学工学部建築系学科修士課程修了。81年、ゆう建築設計設立。著書に、「医療・介護・建築関係者のための高齢者の住まい事業企画の手引き」(学芸出版社)等
http://www.eusekai.co.jp/
E-mail:sunayama@eusekai.co.jp

高齢者住宅に対する注目が高まっています。そうは言っても、製品出荷割合から見れば、通常のマンションに比べ格段に少なく、高齢者専用の製品を供給するまでには至っていません。このため設計者は、一般に発売されている製品から高齢者住宅に適したものを採り出すという作業が必要となります。

こうしたなか、私が最近注目している床材があります。昨年発売



高齢者の住まいは、「家庭的」かつ「体の不自由さに対応」することが求められる

された店舗用タイルカーペットです。ポリエステルを平織しているため、風合いはカーペットですが、車いすの走行性は塩ビ製と変わりません。商店など店舗用なのですが、高齢者住宅にも適しているため、少しコストが高くなりますが、導入を検討する価値があります。

二重床はコストとの相談

高齢者住宅の居室の内装を検討する際、内装材以上に重要なのが床の構造です。床材の性能で重視される「衝撃吸収性」は、どのようにクッション性の良い材料を床面に使うよりも、二重床にするほうが効果が高いのです。床面のクッション性を高めれば、車いすは動きにくくなるので、この点からも二重床の性能は優れていると言えます。コストは㎡あたり1万円ほどですので、居室1室で30万円ほどになります。

私どもが手がけた施設では、高齢者住宅は少数ながら、特養ではほぼすべてが二重床を採用しています。

壁紙にも良い製品

高齢者施設に求められる機能の

現在の高齢者は自然素材の住宅で子ども時代を過ごした方が多いのですが、団塊の世代が高齢者になれば、この塩ビ系素材の内装で育った人たちも増えてきますから、家庭的という概念自体が変わっていきます。

「家庭的」と「体の不自由さ」へ対応する内装材や工法の選択は、高齢者住宅の評価を決める大きな要素となっています。

内装材の選択は重要な設計要素

1つに「防臭」があります。オゾンなどの機械に頼ることもあるのですが、最近さまざまな脱臭効果を持つ製品が出ています。そのなかで私が注目し採用しているものが、「ルノン」による脱臭効果のある壁紙です。脱臭効果をもった壁紙は多くのメーカーから発売されていますが、カタログデータを比べると、効果の持続性を上げているのは「ルノン」だけです。

コストは一般の壁紙と変わりませんが、入居者へのアピール度を考えるとぜひ採用したい製品です。

高齢者住宅の事業性を高める「設計VE」

「家庭的」かつ「身体の不自由さに対応」
高齢者住宅の評価を決める内装選び

砂山憲一 株式会社ゆう建築設計代表取締役



高齢者住宅の内装を真剣に考えたことがありますか。「引き戸」「手すり」「段差なし」などが整備されていれば、高齢者用の建物として十分だと思われていませんか。内装への意識はそんなに高いとは思えません。建物を設計する側から見ますと、高齢者用建物の内装が大きく変わろうとしています。「医療施設の内装」から「介護施設の内装」へ、さらに「住まいの内装」へと変化しています。

当初の介護施設は、「床が掃除しやすい。失禁などに対応できる」「車いすの走行性が良い」など、まさに病室に求められる内装を採用していました。しかし個室・ユニットタイプの小規模特養や、グループホームが計画されるようになると、建物を住まいとして考えるようになり、一般住宅で用いられる床材が導入されるようになりました。さらに、高齢者住宅が普及するにつれ、カーペットが用いられるなど、普通の家庭に近い内装が実現するようになってきました。

高齢者住宅は、「住まいとしての役割」と「体が不自由になることへの対応」が求められますが、徐々に前者が重視されるようになってきた

この両者を完全に満足するものではありません。

床材を例にすると次のようになります。

- カーペット
住宅でよく使われるカーペットは、車いすでの移動が非常にしにくい材料です。
- 木製床
家庭でよく使われ、車いすにも対応できます。医療施設では目地のゴミなど掃除のしにくさが問題となり使われていなかったのですが、高齢者住宅も家庭と同じと考えれば、使うことに問題はありません。
- 塩ビ系床材
一般家庭でもトイレの床材などに使われています。掃除が容易で車いすにも対応できるため、医療施設の床材として多く使われています。特養など介護施設も、この塩ビ系床材が主流を占めています。私は、少しでも家庭的な雰囲気を出すために、木、カーペット、畳などに似せてつくられた塩ビ系床材を使ってきました。

使える製品を探す

近年、住宅設備関連メーカーの

「家庭的」と「体の不自由さ」へ対応する内装材や工法の選択は、高齢者住宅の評価を決める大きな要素となっています。